



訓練の経験を計画に! 住民の目と耳と声でつなぐ自助・共助・公助のバトン ~コロナ禍でも継続できた私たちの防災・減災事業~



大阪府大阪市 新東三国地域活動協議会
副会長 増田裕子

1 はじめに

新東三国地域（以下地域）は大阪市北部の淀川区の北東部に位置し、令和2年の国勢調査では人口9,911人、5,755世帯、共同住宅率が約9割という地域です。上町断層帯地震、南海トラフ巨大地震の想定震度はそれぞれ、震度6強、6弱であり、一級河川神崎川沿いであることから水害リスクもあります。新大阪駅に近く交通の便が良いせいか、ワンルームマンション率が高く、人口の転出入が多い、いわゆるコミュニティが希薄な都市域です。さらに近年は大きな災害に見舞われていないことから、住民の防災意識も低いという課題があります。そんな中でも大阪市の各地域で設立されている多様な地域団体に構成される地域活動協議会が小学校と連携し地域活動及び防災減災活動に取り組んでいます。

2 2015年からはじめた私たちの防災減災ヒストリー

私たちの自主的な防災減災活動は、2015年、地域が校区である大阪市立新東三国小学校との合同防災訓練から始まりました。一緒に行うことにより、従来型の消防訓練に加えて、町会の大人と児童が一緒に「防災ワークショップ」に取り組みました。2回のワークショップを経て、2017年、『いのちをまもる自助マニュアル』を作成し、自助の啓発を促す目的で全戸に配布しました。2018年には、災害時には誰が一番最初に避難所に到着するかわからないという課

題を解決するために、最初に到着した人が避難所を開設できるように、開設の順序と最低限の必要物品をセットにした『避難所開設キット』を小学校の正面玄関に設置することとしました。以降、開設キットに沿った避難所開設運営訓練を実施し、適宜キットやマニュアルの見直しを行っています。2018年の大阪北部地震をきっかけに、初動体制を明確にするために『新東三国地域における自然災害リスクと対策』を作成し、共有するなど、実践的な取り組みを積み上げていきます。



ついに完成! 新東三国地区
防災計画 2020 の表紙

3 参加のハードルを下げる! 投票日×避難所公開

コミュニティが希薄な都市域の悩みは防災訓練などにごく一部の人の参加しかないことです。そこで始めたのが避難所になる小学校に3,000人位の人が訪れる選挙の投票日を利用した『避難所公開デー』です。投票所の出口付近で避難所の備蓄や救助資機材を展示して、選挙にきた方に“ここは避難所にもなる“という意識を持ってもらうことを目的とした取り組みをずっと続けています。



大丈夫タオル×LINE×Google マイマップを活用した安否確認訓練のタオル形状状況の集計ボード

4 訓練の実践を計画に！コロナ禍でも続けられた地区防災計画2020のチャレンジ

2015年からはじまった訓練の経験をつなげたいと考えていた私たちに大きなチャンスが訪れました。地区防災計画学会の地区防災計画モデル地区に選定されたのです。おかげさまで、取り組みをまとめた地区防災計画を2021年3月に策定することができました。2020年はコロナ禍という試練もありました。集まることを制限された中での“大丈夫タオルの掲揚×LINE×Googleマイマップ”というICTを活用した集まらない訓練の実施や、“LINE×Googleマイマップ×Microsoft teams”を活用し淀川区の災害対策本部と地域本部をつないだ災害対策訓練など、様々な試みをチャレンジすることができました。

5 地域の防災の未来のために「小学生版地区防災計画」

2020年12月には大阪市立大学 大学院生活科学研究科 生田英輔准教授と大学院生さんに新東三国小学校5年生を対象とした防災特別授業を実施していただきました。授業の成果は「小学生版地区防災計画」として地区防災計画の最終章になりました。策定にはYahoo!基金様のご支援と大阪市立大学 大学



アナログの力が大事！全戸配布の大丈夫タオルに訓練趣旨を書いた啓発チラシの貼り付け作業風景



MCI 無線以外でも区の災害対策本部と情報を共有！LINE×Googleマイマップ×マイクロソフト teamsを活用した災害対策本部訓練

院生活科学研究科※ 生田英輔准教授と生田研究室の皆様にご多大なご協力をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

6 サステナブルな地域防災減災のための新たなチャレンジ

2022年度、私たちは再び地区防災計画学会のモデル地区に選んでいただきました。更新にあたっては、個別避難計画を含むインクルーシブ防災の指標を示すことにしています。

※大阪市立大学は2022年4月に大阪府立大学と統合し、大阪公立大学になっています。